

事業報告書

令和7年度

(第18期事業年度)

自 令和7年4月 1日

至 令和8年3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

1 設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

2 事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

3 沿革

平成 20 年 4 月 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構設立

- ・ 山形県立日本海病院を日本海総合病院として開院
- ・ 酒田市立酒田病院を日本海総合病院酒田医療センターとして開院

平成 30 年 4 月 酒田市立八幡病院の統合等

- ・ 酒田市立八幡病院等を統合、日本海八幡クリニック、升田診療所、青沢診療所、松山診療所、地見興屋診療所及び飛島診療所を運営開始
- ・ 酒田医療センターを日本海酒田リハビリテーション病院に改名

4 設立根拠法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）

5 所在地（令和 7 年 4 月 1 日現在）

- (1) 法人の主たる事務所 酒田市あきほ町 30 番地
- (2) 設置、運営する病院及び診療所

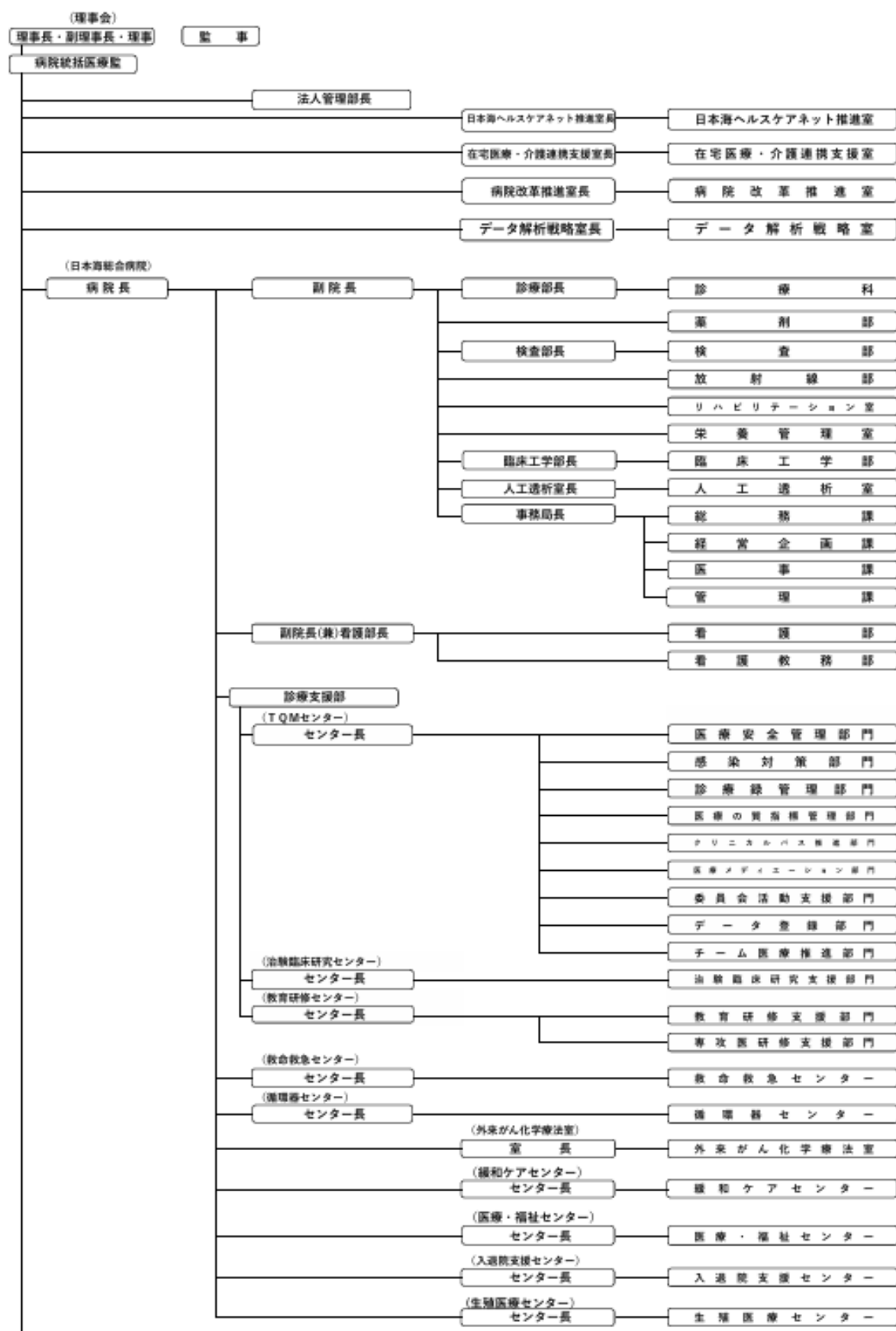
日本海総合病院	酒田市あきほ町 30 番地
日本海酒田リハビリテーション病院	酒田市千石町二丁目 3 番 20 号
日本海八幡クリニック	酒田市小泉字前田 37 番地
升田診療所	酒田市升田字東向 16 番地
青沢診療所	酒田市北青沢字家の前 280 番地
松山診療所	酒田市字西田 8 番地の 1
地見興屋診療所	酒田市地見興屋字前割 9 番地の 1
飛島診療所	酒田市飛島字勝浦甲 66 番地

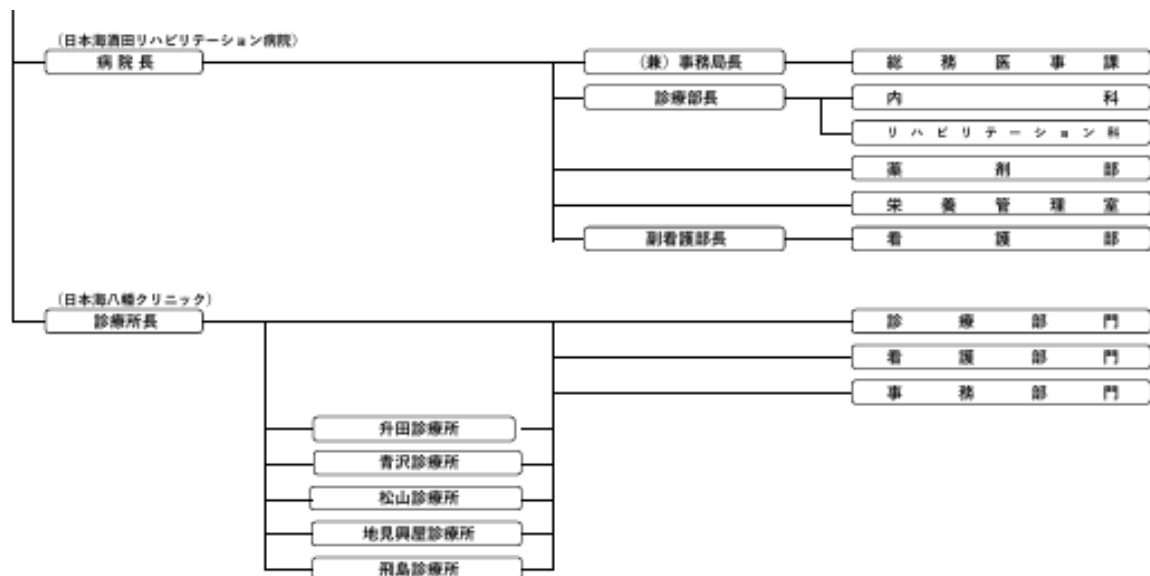
6 役員（令和7年4月1日現在）

役 職	氏 名	任 期	経 歴	備 考
理事長	島貫 隆夫	令和6年4月1日 ～ 令和10年3月31日	平成20年4月 理事 令和2年4月 副理事長 令和5年4月 現職	病院統括医療監
副理事長	橋爪 英二	令和6年4月1日 ～ 令和10年3月31日	令和4年11月 理事 令和5年4月 現職	日本海総合病院 病院長
理 事	尾鷲 和也	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	令和5年4月 現職	日本海酒田リハ ビリテーション 病院 病院長
理 事	内野 英明	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	令和5年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	鈴木 義広	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	令和5年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	工藤 雅哉	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	令和5年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	木村 守	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	令和7年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	佐藤 由紀	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	令和5年4月 現職	日本海総合病院 副院長 (看護部長)
理 事	松本 宏	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	平成31年4月 現職	法人管理部長
監 事	齋藤 俊勝	令和6年8月22日 ～ 令和9年度について の財務諸表の承認の 日	平成20年4月 現職	公認会計士
監 事	加藤 栄	令和6年8月22日 ～ 令和9年度について の財務諸表の承認の 日	平成20年4月 現職	弁護士

7 組織（令和7年4月1日現在）

組織機構圖





8 資本金の状況（令和8年3月31日現在）

	令和6年度 (令和7年3月31日)	令和7年度 (令和8年3月31日)	増 減
資本金合計	19,624,389,029 円	19,624,389,029 円	0 円
山形県出資金	11,527,033,307 円	11,527,033,307 円	0 円
酒田市出資金	8,097,355,722 円	8,097,355,722 円	0 円

9 常勤職員の状況（令和8年3月31日現在）

病 院		日本海総合病院			日本海酒田リハビリ テーション病院			診療所		
		R06	R07	増減	R06	R07	増減	R06	R07	増減
医師・歯科医師	職員数	154	163	9	5	5	0	2	2	0
	平均年齢	40.6	40.2	△0.4	61.6	62.6	1.0	50.0	51.0	1.0
医療技術員	職員数	182	188	6	52	52	0	1	1	0
	平均年齢	38.9	39.0	0.1	33.8	33.8	0	37.0	38.0	1.0
看護・介護職員	職員数	573	568	△5	55	54	△1	14	14	0
	平均年齢	40.0	40.2	0.2	49.1	49.9	0.8	48.6	50.2	1.6
事務職員	職員数	66	66	0	4	4	0	2	2	0
	平均年齢	41.0	41.8	0.8	46.5	45.3	△1.2	55.5	56.5	1.0
スタッフ職員	職員数	29	28	△1	3	3	0	0	0	0
	平均年齢	50.9	51.5	0.6	48.7	49.7	1.0	—	—	—
計	職員数	1,004	1,013	9	119	118	△1	19	19	0
	平均年齢	40.3	40.4	0.1	42.8	43.2	0.4	48.8	50.3	△1.3
法人職員	職員数	1,004	1,013	9	119	118	△1	18	18	0
	平均年齢	40.3	40.4	0.1	42.8	43.2	0.4	49.5	51.0	1.5

県派遣職員	職員数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平均年齢	—	—	—	—	—	—	—	—	—
市派遣職員	職員数	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	平均年齢	—	—	—	—	—	—	37.0	38.0	1.0

病 院 職種		法人計		
		R06	R07	増減
医師・歯科医師	職員数	161	170	9
	平均年齢	41.3	41.0	△0.3
医療技術員	職員数	235	241	6
	平均年齢	37.8	37.9	0.1
看護・介護職員	職員数	642	636	△6
	平均年齢	41.0	41.2	0.2
事務職員	職員数	72	72	0
	平均年齢	44.2	42.4	△1.8
スタッフ職員	職員数	32	31	△1
	平均年齢	50.7	51.5	0.8
計	職員数	1,142	1,150	8
	平均年齢	40.4	40.8	0.4
法人職員	職員数	1,141	1,149	8
	平均年齢	40.7	40.8	0.1
県派遣職員	職員数	0	0	0
	平均年齢	—	—	—
市派遣職員	職員数	1	1	0
	平均年齢	37.0	38.0	1.0

Ⅱ 令和7年度の財務情報

1 財務諸表の要約

(1) 貸借対照表

(百万円)

資産の部	金 額	負債の部	金 額
固定資産	34,224	固定負債	15,175
有形固定資産	19,352	資産見返負債	1,710
無形固定資産	936	長期借入金	6,533
投資その他資産	13,936	移行前地方債償還債務	29
流動資産	13,930	リース債務	16
現金及び預金	9,231	長期寄付金債務	35
有価証券	500	引当金	6,852
未収入金	4,028	流動負債	3,521
たな卸資産	126	一年内返済予定長期借入金	796
その他	46	一年内返済予定移行前地方債償還債務	4
		未払金及び未払費用	1,895
		一年内支払予定リース債務	8
		預り金	74
		引当金	744
		負債合計	18,696
		純資産の部	金 額
		資本金	19,624
		資本剰余金	7,057
		利益剰余金	2,778
		純資産合計	29,459
資産合計	48,155	負債純資産合計	48,155

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(2) 損益計算書

(百万円)

科 目	金 額
営業収益	25,857
営業費用	25,579
営業外収益	527
営業外費用	1,479
経常損失	674
臨時利益	21
臨時損失	54
当期純損失	708
目的積立金取崩額	313
当期総損失	395

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(3) 純資産変動計算書

(百万円)

	I 資本金	II 資本剰余金	III 利益剰余金	IV 評価・ 換算差額等	純資産合計
当期首残高	19,624	6,544	4,018	0	30,186
I 資本金の当期変動額	0	0	0	0	0
II 資本剰余金の当期変動額	0	513	0	0	513
III 利益剰余金の当期変動額	0	0	△ 1,240	0	△ 1,240
IV 評価・換算差額等の当期 変動額	0	0	0	0	0
当期変動額合計	0	513	△ 1,240	0	△ 727
当期末残高	19,624	7,057	2,778	0	29,459

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(4) キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	669
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,546
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,463
IV 資金増加額	△ 3,414
V 資金期首残高	9,645
VI 資金期末残高	6,231

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(5) 行政コスト計算書

(百万円)

科 目	金 額
I 損益計算書上の費用	27,112
医業費用	25,396
一般管理費	184
営業外費用	1,479
臨時損失	54
II その他行政コスト	19
III 行政コスト	27,131

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

2 財務諸表の概要

主要な財務データの前年度比較・分析

(百万円)

区 分	令和 6 年度	令和 7 年度	増 減
当期総利益 (△当期総損失)	254	△ 395	△ 649
資 産	47,621	48,155	534
負 債	17,434	18,696	1,262
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,177	669	△ 508
投資活動によるキャッシュ・フロー	5	△ 5,546	△ 5,551
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 752	1,463	2,215

(当期総利益)

総収益 264 億 5 百万円に対し総費用 271 億 12 百万円で当期純損失は 7 億 8 百万円となった。前中期目標期間繰越積立金から 3 億 13 百万円取崩し当期総損失は 3 億 95 百万円となり、前年比で 6 億 49 百万円減少した。

(資産)

令和 7 年度末時点の資産合計は、前年比で 5 億 34 百万円増加した。これは、電子カルテシステムの更新に伴い無形固定資産が 9 億 4 百万円増となったことが主な要因である。

(負債)

令和 7 年度末時点の負債合計は、前年比で 12 億 62 百万円増加した。これは、固定負債及び流動負債の長期借入金が合計 14 億 69 百万円増となったことが主な要因である。

(純資産)

令和 7 年度末時点の純資産合計は、前年比で 7 億 27 百万円減少した。これは、当年度総損失が 3 億 95 百万円となり、前年比 6 億 49 百万円減となったことが主な要因である。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

令和 7 年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 5 億 8 百万円減少した。これは、前年度と比較して診療業務収入が 3 億 23 百万円増、補助金等の収入が 2 億 13 百万円増加したものの、人件費の支出が 5 億 99 百万円増、材料費の支出が 5 億 36 百万円増となったことが主な要因である。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

令和 7 年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 55 億 51 百万円減少した。これは、有価証券の取得による支出が 35 億円増、有形・無形固定資産の取得による支出が 15 億 55 百万円増となったことが主な要因である。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

令和 7 年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 22 億 15 百万円の収入増となった。これは、前年度と比較して長期借入金収入が 20 億 50 百万円増となったことが主な要因である。

3 重要な施設等の整備等の状況

・Ⅲ－第 7－1 (41 ページ) 参照

4 予算及び決算の概要

・Ⅲ－第 3 (37 ページ) 参照

5 経費の削減及び効率化に関する目標及びその達成状況

・Ⅲ－第2－4（2） （35 ページ） 参照

Ⅲ 令和7年度の事業概要

日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院及び日本海八幡クリニック等診療所は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、「思いやりの心を大切にします。」「質の向上に努め、安全な医療を提供します。」「地域との連携を促進し、住民の健康と福祉の向上を目指します。」「持続可能な病院経営を通して、地域に貢献します。」の基本理念に基づいた医療を提供するため、以下のような取り組みを行った。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 医療機能の分化・連携の推進

地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」への参画により、引き続き、人工透析の機能分担、地域フォーミュラリ、人事交流、急性期機能の集約化、看護管理者間、介護施設間の連携強化等の取り組みを通して、地域の医療機関及び介護・福祉施設等との連携を強化し、切れ目のないサービスの提供に努めた。

【実績】日本海ヘルスケアネット内の人事交流

出向元	出向先	職種	人数	備考
健友会	病院機構	医師	2名	平日診療
病院機構	健友会		8名	外来、在宅往診の応援
病院機構	継和会		1名	外来応援（毎週木曜日の午後）
医師会	病院機構		8名	木・土の宿日直
病院機構	健友会	看護師	5名	透析室
病院機構	宏友会		4名	老健
健友会	病院機構		1名	手術室
健友会	病院機構	臨床工学技士	3名	手術室

【実績】日本海ヘルスケアネット看護管理者ネットワーク会議

活動項目	活動内容
「施設見学を通じた顔の見える関係作り」 内容：各参加施設の見学を通じて、課題について意見交換等の実施	施設概要や課題を共有した後、施設内見学を実施。施設見学では、見学者からの課題を共有・検討するとともに、現場のフィードバックを踏まえて今後の行動を共有した。 （令和7年6月20日 対面開催 場所：日本海総合病院）

「管理者間の連携強化と地域課題解決に向けた意見交換・協議」	組織課題や他施設の取り組みについて、管理者同士が共有・意見交換できる場を今年度も継続して設けた。会議では、人材確保、ICT活用、カスハラ対応やベッド管理など、幅広いテーマで実践的な協議が行われ、連携・相談できる場としても有意義な会となっている。 （令和7年11月21日 対面開催 場所：日本海総合病院） （令和8年3月25日 オンライン開催）
「ICTを活用したタイムリーな情報共有・意見交換体制の運用」	タイムリーな課題に対応するため、Chatworkを活用したタイムリーな情報共有・意見交換のしくみを継続的に運用した。日常的に双方向のやり取りが可能となり、必要時の情報共有・課題対応ツールとして活用できた。

【実績】日本海ヘルスケアネット介護ワーキング

介護報酬改定の動向やDX推進等の取り組みについてレベルアップを図るべく、共同研修を開催

（令和7年8月27日開催：『職場環境改善による生産性向上とサービスの質向上』）

（令和8年1月16日開催：『生産性向上を介護DXから考える』）

人材の確保等を目的として、介護ワーキングの取り組み内容を紹介するパンフレットを作成

【実績】日本海ヘルスケアネット地域フォーミュラリ

良質で低価格な医薬品の使用指針に基づいて標準薬物治療を推進することを目的に、地域フォーミュラリを運用した。令和7年度は推奨薬に6薬剤（DPP-4阻害薬、DOAC、関節リウマチに対するTNF α 抗体製剤、超速効型インスリン製剤、持効型インスリン製剤、テリパラチド）を追加し、計18薬剤で運用した。

2 持続的・安定的な医療の提供及び医療水準の向上

（1）高度専門医療・回復期医療等の充実・強化

- ① 日本海総合病院は、庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、ハイブリッド手術室の手術件数が271件、ロボット支援手術件数が171件、放射線治療件数が5,897件と高度専門医療の充実を図るとともに、DPC特定病院群の適用維持による医療の質の向上を図り、急性期医療及び高度専門医療の適切な提供に取り組んだ。

入退院支援センターの活用や、地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」の活用による診療情報の共有化等により、地域の他の医療機関や介護施設と連携し、入院から退院後の在宅や介護施設への移行の円滑化を図った。

【日本海総合病院の機能】（令和7年4月1日現在）

項 目	概 要								
許可病床数	<table> <tr> <td>一般病床</td><td>586床</td></tr> <tr> <td>病床廃止</td><td>一床</td></tr> <tr> <td>感染症病床</td><td>4床</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>590床</td></tr> </table>	一般病床	586床	病床廃止	一床	感染症病床	4床	合 計	590床
一般病床	586床								
病床廃止	一床								
感染症病床	4床								
合 計	590床								
一般病床の 機能別内訳	<table> <tr> <td>高度急性期</td><td>171床</td></tr> <tr> <td>急性期</td><td>415床</td></tr> <tr> <td>休床</td><td>一床</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>586床</td></tr> </table>	高度急性期	171床	急性期	415床	休床	一床	合 計	586床
高度急性期	171床								
急性期	415床								
休床	一床								
合 計	586床								
標 榜 科 (27診療科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科								
診療機能等	・救命救急センター（ICU、HCU） ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・災害拠点病院 ・へき地医療拠点病院 ・認知症疾患医療センター ・臨床研修病院 など								

（注）許可病床数については、病床規模の適正化等により変更する場合がある。

（注）一般病床の機能別内訳は年度計画策定時点での見込みであり、当該年度の病床機能報告数とは一致しない場合がある。

【実績】

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
平均在院日数	12.0日	12.0日	11.7日	11.1日
病床稼働率	76.8%	83.7%	81.2%	77.8%

目標とする全身麻酔手術件数の目標値については、大幅に上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
全身麻酔手術件数	2,600件以上	2,936件

- ② 日本海酒田リハビリテーション病院は、回復期医療と慢性期医療を担い、回復期医療では、在宅復帰に向けた医療及びADL（日常生活動作）の向上を目的としたリハビリテーションを提供し、慢性期医療では、長期にわたり療養を必要とする患者及び重度障がい者等の受入れを行った。

【日本海酒田リハビリテーション病院の機能】（令和7年4月1日現在）

項 目	概 要								
許可病床数	療養病床 114床								
療養病床の 機能別内訳	<table> <tr> <td>回復期</td><td>79床</td></tr> <tr> <td>慢性期</td><td>35床</td></tr> <tr> <td>休床</td><td>1床</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>114床</td></tr> </table>	回復期	79床	慢性期	35床	休床	1床	合 計	114床
回復期	79床								
慢性期	35床								
休床	1床								
合 計	114床								
標 榜 科 (2診療科)	内科、リハビリテーション科								
診療機能等	・回復期リハビリテーション ・在宅重症難病患者一時入院機能 ・臨床研修病院 など								

(注) 許可病床数については、病床規模の適正化等により変更する場合がある。

(注) 一般病床の機能別内訳は年度計画策定時点での見込みであり、当該年度の病床機能報告数とは一致しない場合がある。

目標とする回復期リハビリテーション実績指数の目標値については、大幅に上回ることができた。

【目標】日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
回復期リハビリテーション実績指数	40点以上	54.6点

- ③ 日本海八幡クリニック等診療所は、それぞれの地域における唯一の医療機関として一次医療の提供及び地域住民への訪問看護等を提供した。また、地域の医療ニーズを考慮しオンライン診療を活用し医療Ma a S (Mobility as a Service)を展開し、へき地医療を提供した。

【日本海八幡クリニック】（令和7年4月1日現在）

項 目	概 要
標榜科（4診療科）	内科、外科、整形外科、リハビリテーション科
診療機能等	・運動器・呼吸器・脳血管疾患等リハビリテーション ・訪問診療、訪問看護（介護保険事業を含む）

【実績】日本海八幡クリニック

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
延外来患者数	16,315 名	15,026 名	14,797 名	14,163 名
1 日平均外来患者数	56.1 名	50.5 名	50.7 名	56.7 名

【実績】訪問看護ステーションやわた

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
延利用者数	3,501 名	3,817 名	4,885 名	5,078 名
1 日平均利用者数	10.1 名	10.8 名	13.7 名	14.1 名

【升田診療所】 【青沢診療所】（令和 7 年 4 月 1 日現在）

項 目	概 要
標榜科	内科

【実績】升田診療所

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
延外来患者数	—	—	—	—
1 日平均外来患者数	—	—	—	—

※令和 4～7 年度受診希望者なし

【実績】青沢診療所

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
延外来患者数	69 名	55 名	—	—
1 日平均外来患者数	5.8 名	5.5 名	—	—

※令和 6、7 年度受診希望者なし

【松山診療所】 【地味興屋診療所】 【飛島診療所】（令和 7 年 4 月 1 日現在）

項 目	概 要
標榜科（2 診療科）	内科、外科
診療機能等	松山診療所：訪問診療、飛島診療所の遠隔診療

【実績】松山診療所

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
延外来患者数	2,929 名	2,739 名	2,652 名	2,250 名
1 日平均外来患者数	18.5 名	25.3 名	23.9 名	18.9 名

【実績】地味興屋診療所

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
延外来患者数	88 名	95 名	—	—
1 日平均外来患者数	4.4 名	6.3 名	—	—

※令和 6、7 年度受診希望者なし

【実績】飛島診療所

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
延外来患者数	422名	401名	394名	360名
1日平均外来患者数	2.7名	2.7名	3.2名	2.8名

【実績】医療Ma a S・遠隔診療（日本海八幡クリニック）

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
日本海八幡クリニック医療Ma a S	—	—	375名	611名
飛島診療所遠隔診療	320名	292名	217名	229名

※医療Ma a Sは令和6年5月より運用開始

ア 診療体制の充実

（ア）救急医療（日本海総合病院）

庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、地域に信頼される医療の提供に努めた。また、救命救急センターの機能強化のため、一般社団法人酒田地区医師会十全堂と連携し、高度な処置が必要となる重篤な患者に対する三次救急診療を日本海総合病院の医師が担い、夜間救急外来での一次救急診療については、一般社団法人酒田地区医師会十全堂所属の医師が担当し、夜間救急の診療体制を維持した。

【実績】救命救急センター延べ患者数

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
19,662名	20,500名	19,608名	18,141名

【実績】酒田地区医師会診療支援による延べ患者数

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
98名	89名	83名	62名

【実績】救急車の搬送数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
酒田地区 医療機関への搬送数 計	5,418名	6,001名	5,741名	5,505名
うち日本海総合病院への搬送数	3,645名	3,927名	3,482名	3,428名
鶴岡地区 医療機関への搬送数 計	5,334名	5,701名	5,507名	5,181名
うち日本海総合病院への搬送数	314名	460名	484名	375名
庄内地域での日本海総合病院の割合	36.8%	37.5%	35.3%	35.6%
救急搬送受入要請の応需率	100%	100%	100%	100%

目標とする地域救急貢献率は、大幅に上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
地域救急貢献率	32%以上	35.6%

(イ) がん医療（日本海総合病院）

- ① 地域がん診療連携拠点病院として、手術や放射線療法、化学療法等の集学的治療を継続して行った。

放射線療法においては、より適切で効果的ながん医療の提供により、強度変調放射線治療（IMRT）、定位放射線治療（SRT）といった高度な治療を行った。

外来での化学療法治療の質の向上に努め、患者の状態を踏まえた必要な指導を行うとともに、地域の保険薬局の薬剤師等を対象とした研修会の実施等の連携体制を整備した。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
手術	1,156 件	1,220 件	1,250 件	1,235 件
放射線療法 (実件数)	6,582 件 (184 件)	6,119 件 (176 件)	5,510 件 (139 件)	5,897 件 (260 件)
うちIMRT (実件数)	2,639 件 (73 件)	2,825 件 (86 件)	2,723 件 (102 件)	3,184 件 (106 件)
うちSRT (実件数)	27 件 (9 件)	28 件 (8 件)	75 件 (7 件)	34 件 (13 件)
外来化学療法	7,503 件	8,141 件	8,475 件	9,011 件

【実績】地域の保険薬局薬剤師を対象とした研修会の実施

実施日	内容	参加人数
令和7年6月26日	連携充実加算に伴う研修会 「抗がん薬に対する副作用と対策」他	54 名

より適切ながん医療を提供するために山形大学医学部附属病院腫瘍内科医師を招集し他職種による検討を行うがんサージングボードを定期的を開催するとともに、がんゲノム検査検討会を開催し検討を行った。

【実績】がんサージングボード実績

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
回数	37 回	34 回	21 回	17 回
症例数	141 症例	152 症例	72 症例	67 症例

【実績】がんゲノム検査検討会実績

区 分	令和6年度	令和7年度
回数	18 回	19 回
症例数	58 症例	49 症例

がんゲノム医療連携病院として、遺伝子パネル検査を継続して行い、一人ひとりに適した治療法の提案に努めた。

【実績】遺伝子パネル検査実施件数

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
75 件	84 件	72 件	70 件

がん相談支援センターにおいて、がんの治療、セカンドオピニオン、在宅療養、医療費などについての相談に応じ、がんの治療にかかわる不安や悩みの解決をサポートした。

【実績】がん相談件数

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1,384件	1,426件	1,307件	1,638件

- ② 適切な緩和ケアの早期提供のため、緩和ケアスクリーニングを行い、緩和ケア医療の充実に努めた。

【実績】緩和ケアスクリーニング実施件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
入院	4,368件	4,297件	4,624件	4,844件
外来	658件	633件	715件	724件

医師及び多職種に対する緩和ケア研修会を開催し、緩和ケア医療提供の体制強化に努めた。

【実績】がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
受講医師数	104名	101名	112名	110名

- ③ がん対策の進展に貢献するよう、中級認定者を専従として1名、初級認定者を専任として1名配置し、院内がん登録及び全国がん登録を実施した。

【実績】がん登録件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
対象年	2021年症例	2022年症例	2023年症例	2024年症例
院内がん登録	1,961件	1,954件	2,005件	2,069件
全国がん登録	1,969件	1,964件	2,013件	2,082件

(ウ) 脳卒中・心筋梗塞等の心血管疾患（日本海総合病院）

- ① 急性期医療において内科的・外科的治療を速やかに行い、機能回復のためのリハビリテーションの早期開始に努めた。また、継続して休日のリハビリテーションを提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

区 分	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管	851名	48,047回	821名	45,537回	734名	40,146回	755名	42,521回
心大血管	638名	9,731回	652名	8,944回	658名	8,578回	639名	10,332回

【実績】休日のリハビリテーション実施状況

区 分	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管	612名	2,706回	661名	3,956回	609名	4,177回	666名	5,374回
心大血管	395名	757回	400名	956回	429名	901回	467名	1,154回

- ② 脳梗塞の血栓回収療法等、脳卒中に対する適切な急性期医療の提供体制を整え、医師・看護師・コメディカルスタッフと連携し、適切かつ速やかな治療を提供した。

【実績】血栓回収療法、t-P A実施件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
血栓回収療法	4件	11件	13件	15件
t-P A	18件	24件	28件	32件

- ③ 酒田及び鶴岡地区管内全ての救急隊に配備されている12誘導心電図伝送システムを活用し、重篤患者の治療を行った。

【実績】12誘導心電図伝送件数

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
357件	469件	409件	475件

急性心筋梗塞の救急搬送患者に対して、速やかに集中治療室に転送し、迅速な救命治療を実施した。また、病院に到着する前に院内放送で心筋梗塞チームを参集し、救急搬送直後から治療にとりかかるシステム運用した。

【実績】経皮的冠動脈形成術及び経皮的冠動脈ステント留置術件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
急性心筋梗塞に対するもの	44件	64件	61件	50件

(エ) 糖尿病（日本海総合病院）

医師・看護師・管理栄養士等が協働し、治療又は生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を継続して行った。

【実績】糖尿病教室

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
開催回数	13回	3回	15回	20回
参加人数	34名	6名	46名	62名

【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
実患者数	3名	11名	11名	8名
指導回数	10回	42回	54回	50回

【実績】教育入院患者数

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
217名	156名	94名	102名

【実績】個別栄養指導件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
入院	2,462件	2,517件	2,751件	2,673件
外来	970件	792件	895件	1,019件
外来化学療法	—	135件	17件	7件

目標とする糖尿病教室の開催回数については、大幅に上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
糖尿病教室	12回以上	20回

(オ) 精神疾患（日本海総合病院）

地域の精神科病院等との役割分担と連携により、総合病院として身体合併症患者を受け入れ、診療等を提供した。

【実績】他の精神科病院から日本海総合病院に紹介等され入院した患者数

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
64件	84名	66名	47名

(カ) 小児・周産期医療（日本海総合病院）

- ① 二次周産期医療機関として、他の医療機関との機能分担及び連携を図り、ハイリスク分娩への対応等、周産期に係る高度な産科医療を提供した。

【実績】母体・新生児救急受入れ患者数等状況

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
母体	10名	15名	9名	19名
新生児	4名	3名	1名	1名
緊急帝王切開術	56件	46件	38件	55件

- ② 庄内地域で唯一生殖補助医療が受けられる施設として「生殖医療センター」を開設した。これにより、高度な生殖補助医療を提供し、地域の不妊治療の拡充を図った。

【実績】生殖医療センター

区 分	令和7年度
延外来患者数	7,690名
新外来患者数	551名
採卵件数	190件
凍結融解胚移植数	142件

- ③ 産婦人科専門医及び小児科専門医の体制により、地域の住民が安心して出産できる環境を提供した。また、三次周産期医療機関と連携を図り、母体・新生児の救急搬送を適切に行った。

【実績】母体・新生児の救急搬送患者数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
母体	12名	7名	10名	12名
新生児	2名	2名	2名	3名

(キ) 回復期リハビリテーション（日本海酒田リハビリテーション病院）

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等により障がいが生じた患者に加えて、廃用症候群の患者のADL（日常生活動作）を改善し、早期に在宅療養又は社会復帰ができるよう、リハビリテーションを集中的に提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

区 分	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管リハ	245名	83,159回	229名	88,298回	170名	64,466回	240名	97,960回
運動器リハ	206名	57,561回	200名	59,931回	190名	48,565回	177名	47,386回
廃用症候群	22名	2,968回	29名	1,933回	47名	8,754回	37名	4,863回

(ク) 在宅医療支援及び療養支援

- ① 入退院支援センターにおいて入院前より退院困難な要因の抽出を行い、経済面や在宅療養への不安等様々な問題に応じて、社会福祉士や退院支援看護師が早期に支援を行い、不安軽減に努めた。

入院後の退院支援においても切れ目なくサービスが受けられるよう、地域の介護・福祉・医療機関等との連携を行った。退院困難の事例においては、多職種によるカンファレンスを行い、患者が住み慣れた地域での暮らし、患者家族が望む退院先を自己決定できるように支援を行った。

退院後においても、在宅療養で不安や問題が生じた際には、患者、家族からの相談にも応じ、在宅医や訪問看護、ケアマネジャー等とも情報共有を行い、継続した支援を実施した。

【実績】入院前スクリーニング実施件数（日本海総合病院）

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
5,525名	6,031名	6,661名	6,640名

【実績】退院調整件数（日本海総合病院）

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
他病院	994 件	1,107 件	1,175 件	1,136 件
在宅	12,351 件	12,637 件	12,351 件	12,639 件
介護老人保健施設	142 件	93 件	106 件	74 件
介護老人福祉施設	100 件	162 件	153 件	141 件
ショートステイ	135 件	122 件	91 件	65 件
有料老人ホーム	260 件	192 件	211 件	137 件
その他	50 件	66 件	103 件	97 件
合計	14,032 件	14,379 件	14,190 件	14,289 件

【実績】在宅療養支援職員との連携件数（日本海総合病院）

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
介護支援連携指導件数	477 件	649 件	659 件	592 件
退院時共同指導件数	149 件	202 件	150 件	98 件

- ② 地域における医療及び介護の連携強化と質向上を目的として、研修会及び講演会等を開催した。また、各施設の個別の課題に対して日本海総合病院の認定看護師や専門看護師、社会福祉士を派遣し、教育・研修を実施することで各施設の課題解決に取り組んだ。

地域における切れ目のない在宅医療と在宅介護の実現に向けて、医療・介護情報の共有や連携の課題に対する相談支援を行った。

【実績】施設向け研修（日本海総合病院）

研修種別	回数	参加人数
医療サポート研修会	5 回	468 名
医療と介護の合同研修会	2 回	227 名
人的資源活用研修会	9 回	228 名
実践ワークショップ	1 回	28 名
地域住民向け研修会（在宅ケア講演会）	1 回	206 名

- ③ 在宅医療を行っている診療所や介護施設等と連携を図り、入院治療が必要となった患者の受入れを適切に行い、レスパイト入院を行った。

【実績】診療所からの入院受入患者数（日本海酒田リハビリテーション病院）

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
32 名	36 名	19 名	5 名

（ケ）一次医療とプライマリ・ケアの提供、充実（日本海八幡クリニック等診療所）

- ① ヘキ地医療等、地域医療の維持・確保のため、診療所が設置されている各地域において、日常的な病気やけが等の患者に医療とプライマリ・ケアを提供し、必要に応じて高度及び専門医療機関等に紹介し連携を図った。

【実績】日本海総合病院への紹介件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
日本海八幡クリニック	347 件	410 件	433 件	294 件
松山診療所	52 件	64 件	59 件	58 件
飛島診療所	7 件	5 件	1 件	11 件

【実績】日本海総合病院以外への紹介件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
日本海八幡クリニック	87 件	82 件	107 件	72 件
松山診療所	12 件	18 件	17 件	40 件
飛島診療所	5 件	2 件	2 件	3 件

- ② オンライン診療の活用を推進し、中山間地域において身体の状態や交通手段等で定期的な通院が困難な患者に対し、遠隔診療および医療M a a S 事業体制の充実を図り、継続的な医療を提供した。

【実績】医療M a a S（日本海八幡クリニック）

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
医療M a a S（自宅）	—	—	338 名	494 名
医療M a a S（介護施設）	—	—	37 名	78 名
医療M a a S（コミセン）	—	—	—	39 名

※令和6年5月より運用開始

【実績】遠隔診療（飛島診療所）

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
遠隔診療	320 名	292 名	217 名	229 名

イ 高度医療機器の計画的な更新・整備（日本海総合病院）

高度専門医療等の医療機器の更新にあたっては、整備計画を策定し、それに従い整備を行った。財源としては起債及び剰余金を活用した。

高度医療機器については、ハイブリット手術システムを起債事業にて更新し、全自動輸血検査装置、生体情報モニター等その他の医療機器については、医療機器整備計画及び利用見込み並びに収支予測を行い、計画的に更新・整備を行った。

ウ 災害時への対応（日本海総合病院）

- ① 災害拠点病院として機能するよう、動画配信による研修会、トリアージ研修会、机上訓練及び実働訓練を開催し、災害時の対応に備えた。

【実績】災害医療研修及び訓練

実施日	内 容	参加人数
令和 7 年 6 月 4 日～ 令和 7 年 11 月 30 日	(災害医療研修会／動画配信) 災害医療の基礎とトリアージ	748 名
令和 7 年 7 月 10 日	(災害医療研修会／トリアージ研修会) 模擬患者を使った“トリアージ研修会”	109 名
令和 7 年 10 月 4 日	(災害対応訓練／机上訓練) 災害机上訓練	169 名
令和 7 年 11 月 8 日	(災害対応訓練／実働訓練) 災害実働訓練	214 名

災害時に必要な医療物資等及び食料の備蓄を実施するとともに、燃料等の優先納入契約に関する協定を継続した。

【実績】医療物資等及び食料の備蓄

年 度	内 容
令和 7 年度	アルファ米 60 箱・カロリーメイト 34 箱・カレー34 箱・ウインナーソー セージ 20 箱

【実績】燃料等の優先納入契約に関する協定

締結日	内 容
令和 7 年 4 月 1 日	災害時における A 重油の優先供給に関する協定
令和 7 年 4 月 1 日	災害時におけるガソリン等の優先供給に関する協定

目標とする災害等に係る訓練及び研修会については、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和 7 年度実績
災害等に係る訓練及び研修	4 回以上	4 回

- ② 大規模地震時医療活動訓練（政府総合防災訓練）及び東北ブロック DMA T 参集訓練への参加、また各種 DMA T 研修会への参加、日赤救護班の山形県・酒田市合同総合防災訓練への参加等により、職員の技能維持並びに技能向上に取り組んだ。

庄内空港に設置される SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の運営協力として、山形県所有の SCU 医療資機材について当院で保管、点検等を実施して災害発生時に備えた。

エ 新興感染症等の健康危機への対応（日本海総合病院）

- ① 第二種感染症指定医療機関として、結核をはじめとする感染症患者の診療を積極的に実施し、実患者数 206 名受け入れた。

感染経路別予防策に応じた対策を行い、適切な入院環境の提供に努めた。

- ② 山形県と医療措置協定を締結し、第一種協定指定医療機関として、流行初期から患者の入院を受け入れる病床確保や個人防護具の備蓄を実施した。

有事に備えて、年 2 回の院内感染対策研修会に加え、庄内保健所や鶴岡市立荘内病

院、庄内余目病院と共催で新興感染症等の発生を想定した合同訓練を行った。

I C T（感染制御チーム）及びA S T（抗菌薬適正使用支援チーム）主催の感染対策地域連携合同カンファレンスや保健所主催の庄内AMR（薬剤耐性）等対策ネットワークへの参画により、平時においても関係機関と顔の見える関係の維持に努めている。

【実績】感染対策に係る活動について

実施日	内 容	参加者
令和7年7月12日 11月20日 (オンライン開催)	感染対策地域連携合同カンファレンス ・薬剤耐性菌等の検出状況 ・感染症患者の発生状況 ・抗菌薬の使用状況 ・院内感染対策の実施状況	・医療機関 ・薬剤師会及び調剤薬局 ・高齢者施設等 ・関係行政機関
令和7年4月24日 6月18日 8月7日 10月22日 12月17日 令和8年2月25日	庄内AMR（薬剤耐性）等ネットワークコアメンバー会議 ・感染症発生状況 ・流行中の感染症について ・V R E及びC R Eの検出状況について ・新興感染症等の発生を想定した合同訓練の実施状況	
令和8年3月11日	令和7年度庄内地域結核対策研修会 ・庄内地域の結核の現状について	

【実績】新興感染症の発生を想定した研修又は訓練

実施日	内 容	参加者
令和8年2月16日 (会場・オンラインのハイブリッド開催)	新興感染症等の発生を想定した合同訓練 ・新型インフルエンザ疑い患者の受け入れから入院調整・保健所連携までの初動対応を総合的に確認・強化する。	・医療機関 ・関係行政機関 ・高齢者施設等
令和8年3月19日 (オンライン開催)	感染対策地域連携合同カンファレンス ・新興感染症等の発生を想定した合同訓練の振り返り	・医療機関 ・関係行政機関等

目標である新興感染症の発生を想定した研修又は訓練について、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
新興感染症の発生を想定した研修又は訓練	2回以上	2回

オ 政策医療の実施（日本海総合病院）

- ① 認知症疾患医療センターとして、認知症患者の状況等に応じた専門医療相談、鑑別診断等を実施した。

【実績】認知症疾患医療センター相談件数

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
新規	435件	435件	459件	497件
継続	250件	209件	245件	273件

- ② 脳死下臓器移植について、山形県臓器移植推進機構の協力を得ながら、院内コーディネーターを対象とした「臓器提供シミュレーション」を実施した。また、県主催の院内コーディネーター連絡会議にも参加した。

【実績】臓器提供シミュレーション等臓器提供に関する研修

実施日	内 容	参加人数
令和7年12月12日	脳死判定シミュレーション	12名

目標である脳死判定シミュレーション等臓器提供に係る研修について、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
脳死判定シミュレーション 等臓器提供に関する研修	1回以上	1回

(2) 医療従事者の確保及び資質向上

ア 医療従事者の確保・育成

- ① 高度専門医療等の安定的な提供を図るため、医師、薬剤師、看護師のほか医療職9職種の募集、職員採用試験を計画的に実施し、医療従事者の確保に努めた。

採用実績は、看護師39名、医療技術者については計24名の職員を確保した。（医師、事務職除く）

【実績】採用者人数（令和7年度採用試験）

職 種	受験者数	内定者数	令和8年4月入職数
初期臨床研修医	31名	13名	12名
研修歯科医	4名	2名	2名
看護師	47名	40名	39名
薬剤師	4名	2名	2名
臨床検査技師	3名	2名	2名
臨床工学技士	2名	2名	2名
臨床放射線技師	3名	1名	1名
理学療法士	11名	5名	5名
作業療法士	7名	4名	4名
言語聴覚士	5名	3名	3名
管理栄養士	7名	2名	2名
歯科衛生士	7名	2名	2名
社会福祉士	8名	1名	1名
計	139名	79名	77名

※事務職除く

- ② 看護師の特定行為研修修了者を積極的に活用するため、特定行為関係の統括を行う看護師を配置し強化を図っている。

【実績】特定行為実施件数（日本海総合病院）

特定行為	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
侵襲的陽圧換気の設定の変更	123 件	110 件	116 件	178 件
人工呼吸器からの離脱	6 件	—	—	38 件
気管カニューレの交換	—	—	6 件	8 件
胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	7 件	24 件	40 件	38 件
膀胱ろうカテーテルの交換	—	3 件	1 件	3 件
持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	1 件	—	—	—
抹消留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	—	—	—	5 件
持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	2 件	—	—	—
持続点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整	—	—	1 件	—
インスリン投与量の調整	—	3 件	3 件	—
褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	—	—	10 件	17 件
創傷に対する陰圧閉鎖療法	—	—	—	1 件
創部ドレーンの抜去	—	—	—	—
直接動脈血穿刺または直接動脈穿刺法による採血	—	37 件	66 件	110 件
脱水症状に対する輸液による補正	4 件	2 件	—	—
橈骨動脈ラインの確保	85 件	136 件	172 件	233 件
気管チューブの位置調整	—	—	7 件	16 件
合計	228 件	315 件	422 件	647 件

- ③ 新専門医制度の下で、基幹施設として研修実施可能な4診療科（内科、外科、産婦人科、麻酔科）及び連携施設（内科、外科、精神科、整形外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、脳神経外科、形成外科、放射線科、病理診断科）において、多くの専攻医を受け入れ、医師確保に努めた。

【実績】マッチング状況

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
定員	13 名	13 名	13 名	13 名
充足率	100%	100%	100%	100%

【実績】臨床研修医及び専攻医（レジデント）受入れ人数

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
67 名	73 名	74 名	73 名

目標とする初期臨床研修医マッチングについて、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
初期臨床研修医マッチング	フルマッチ	フルマッチ

- ④ 教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研修のサポート体制の充実に努め、各職種の専門性の向上を図るため、外部講師による役職別研修や各部門独自で専門能力を高める研修をした。

- ⑤ 看護師・助産師を育成・確保するため、修学資金貸与を継続して行った。
薬剤師を育成・確保するため、薬剤師修学資金貸与を新たに実施した。

【実績】看護師等・薬剤師修学資金の貸与

区 分		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
		看護師	看護師	看護師	看護師	薬剤師
貸与	貸与者	14名	14名	12名	11名	4名
	うち新規貸与決定者	4名	4名	5名	4名	4名
終了	貸与終了者 (A)	5名	4名	5名	3名	2名
	うち法人就職者 (B)	4名	3名	5名	3名	2名
	入職率 (B/A)	80%	75%	100%	100%	100%

- ⑥ 看護師の資質向上のため、昨年度に引き続き、特定行為看護師研修者を育成した。
また、協力施設において1名が特定行為研修を修了した。

【実績】認定看護師等研修派遣

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
認定看護師	2名	0名	1名	0名
専門看護師	1名	1名	0名	0名
特定行為研修	3名	2名	2名	2名

目標とする各種看護師資格の取得者数及び特定行為研修修了者数の目標値については、上回ることができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
各種看護師資格の新規取得者数	中期計画期間中 5名以上	2名
特定行為研修修了者数	中期計画期間中 4名以上	2名

※年度目安：各種看護師資格新規取得者数1～2名以上、特定行為研修修了者数1名以上

イ 事務職員の確保と専門性の向上

事務職員の専門性向上のため、事務職員資格取得支援制度を活用し、診療情報管理士に令和2年度から令和7年度までに7名が合格し、令和7年度は新たに1名が受講を開始した。さらに、研修会受講や学会参加等の奨励及び支援を行い、専門性と資質の向上に努めた。

医師事務作業補助者、診療アシスタント、診療情報管理士のキャリアパスを策定し、専門職としての資質向上ができる仕組みを構築している。

ウ 職員の勤務環境の改善

- ① 看護師の特定行為研修修了者や医師事務作業補助者等を配置することで、タスクシフト・タスクシェアの推進を図り、医師の負担軽減に努めた。また、医師短時間正職員制度の活用を推進し、柔軟な勤務形態の環境整備に努めた。

目標とする医師の時間外労働規制について、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
医師の時間外労働規制	A水準	A水準

- ② 職員が健康を維持し、また、業務に専念できるよう定期健康診断を実施した。
ストレスチェックに加え、長時間労働者延べ62名に産業医面談を実施し職員の健康維持に努めた。

防犯研修会を実施し、カスタマーハラスメント対策の充実を図った。

【実績】ストレスチェックの受診状況(日本海総合病院)

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
受診率	89.5%	79.0%	79.4%	81.4%

- ③ 介護や子育て等、家庭環境に配慮した支援及び医師のキャリアパスに配慮した医師短時間正職員制度や育児部分休業等の制度の活用を推進し、さらに院内保育所の24時間対応や病児・病後児保育の継続等、働きやすい環境づくりを進め、職員のワーク・ライフ・バランスの向上に努めた。

【実績】医師短時間職員制度等の利用状況

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
医師短時間	3名	2名	3名	2名
育児部分休業	1名	2名	4名	4名
育児短時間勤務	1名	1名	0名	2名
育児時間	40名	52名	71名	64名
ベビーシッター等助成金	0名	0名	1名	0名
ハウスクリーニング等助成金	2名	2名	2名	3名
屋外清掃作業助成金	0名	1名	1名	2名

- ④ 病棟、外来及び文書作成に医師事務作業補助者を配置し、医師をはじめとする各職種の労働時間短縮・負担軽減を図り、効率的な業務遂行に務めた。また、外来看護師の負担軽減のため、業務の再整理と役割分担の明確化を行うことで外来業務の円滑化を図った。

【実績】医師事務作業補助者配置数

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
76名	79名	79名	78名

(3) 医療サービスの効果的な提供

ア 地域連携の推進

① 地域医療構想の実現及び地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」への参画により、引き続き、人工透析の機能分担、地域フォーミュラリ、人事交流、急性期機能の集約化、看護管理者間、介護施設間の連携強化等を行い、地域の医療機関及び介護、福祉施設等との連携を強化し、切れ目のないサービスの提供に努めた。

② 県内外の医療機関へ医師32名を派遣し、広域的な医療連携の推進に努めた。

地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」をはじめとしたICTの活用などにより、山形県全域および秋田県との地域及び医療圏を超えた広域的な医療連携、「あきたハートフルネット」との診療情報の相互連携を継続的に行った。全国的な取り組みである全国ID-Link EHRに参加し、参加している国内の医療機関と連携できる基盤の構築を継続的に行った。

【実績】ちようかいネット・あきたハートフルネット相互閲覧件数

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
48件	55件	88件	23件

【実績】ちようかいネット・あきたハートフルネット相互閲覧件数（主要コンテンツ別）

コンテンツ	令和4～7年度 合計
処方（指示）	4件
注射（指示）	3件
検査	16件
画像（指示）	49件
レポート	13件
画像一覧（画像の参照）	107件
ノート（記録）	21件

③ 地域の医療サービスを効果的に提供するため、連携協力医登録制度を活用し、医療福祉センターの逆紹介サポート窓口において、社会福祉士が患者と面談し逆紹介について相談できる体制を構築するなど、かかりつけ医への紹介等連携を図った。

【実績】紹介率、逆紹介率（日本海総合病院）

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
紹介率	67.8%	70.9%	70.3%	69.0%
逆紹介率	97.0%	98.2%	99.2%	95.4%

目標とする紹介率及び逆紹介率について、目標値を上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
紹介率	65%以上	69.0%
逆紹介率	95%以上	95.4%

イ 診療情報の共有化、地域連携クリティカルパスの活用

- ① 地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」の拡大や活用促進に主体的に取り組み、他の医療機関や薬局、介護・福祉施設等との診療情報の共有化の推進を図ったことから、前年度と比べ登録患者が5,625名増加した。

【実績】登録患者数等

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
登録患者数	60,650名	66,457名	72,460名	78,085名
開示施設数	8施設	8施設	6施設	5施設
閲覧施設数	249施設	264施設	268施設	276施設

- ② 効率的で適切な医療を提供するため、患者への負担軽減及び他の医療機関との機能分担を図りながら、地域連携クリティカルパスを継続して活用した。

地域連携クリティカルパスの運用により、他の医療・介護福祉機関と連携し支援を行った。

【実績】地域連携クリティカルパス適用件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
大腸がん	11件	1件	16件	10件
乳がん	8件	9件	1件	6件
胃がん	9件	0件	0件	3件
大腿骨近位部骨折	88件	99件	100件	109件
脳卒中	165件	172件	168件	172件
前立腺がん	0件	2件	0件	0件

ウ 医療DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進

- ① マイナ保険証の利用促進のため、全ての再来受付機を顔認証付きカードリーダーと連携し、マイナ受付と同時に再来受付が行えるように改修した。

医師のHPKIカード取得の推進を図り、電子処方箋の利用を促進することで地域の医療安全向上に努めた。

電子カルテ情報共有サービスモデル事業に参加し、2文書6情報の提供および他医療機関からの情報取得ができるようシステムを改修した。

【実績】マイナ保険証利用件数等

区 分	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
マイナ保険証利用件数	6, 227 件	92, 262 件	195, 375 件
マイナ保険証最高利用率	9. 4%	50. 3%	86. 1%
電子処方箋発行枚数	48, 858 件	69, 656 件	81, 093 件

- ② 医療・介護・福祉連携の推進を図るため、酒田市と協働して、医療・介護情報共有サービス「T e a m」を導入し、酒田市の医療機関・介護施設など 161 施設が参加した。

【実績】「T e a m」参加施設数

診療所	23 施設	訪問介護（ヘルパー）	8 施設	グループホーム	10 施設
病院	8 施設	訪問リハビリ	2 施設	特別養護老人ホーム	9 施設
居宅介護支援	26 施設	デイサービス・デイケア	18 施設	介護老人保健施設	5 施設
地域包括支援センター	10 施設	ショートステイ	7 施設	その他	18 施設
訪問看護	12 施設	小規模多機能型居宅介護	6 施設	計	161 施設

（４）教育研修事業の充実

ア 庄内地域における医療水準の向上

- ① 臨床研修医及び専攻医の受入れ並びに山形大学からのスチューデントドクター及び東北大学や自治医科大学からの地域医療実習生を継続して受入れ、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】臨床研修医等の受入れ状況（日本海総合病院）

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
臨床研修医	28 名	28 名	27 名	29 名
専攻医	39 名	45 名	47 名	45 名
スチューデントドクター（山形大学）	66 名	64 名	65 名	59 名
高次臨床修練生（東北大学）	2 名	1 名	2 名	—
都道府県拠点病院実習（自治医科大学）	—	1 名	1 名	1 名

酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として看護師の育成や、薬学生をはじめ、その他の職種の学生についても実習の受入れを行い、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】酒田看護専門学校実習実績（日本海総合病院）

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
実習学生数	77 名	82 名	79 名	84 名

【実績】酒田看護専門学校実習実績（日本海酒田リハビリテーション病院）

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
実習学生数	—	6 名	8 名	8 名

【実績】薬学生実務実習実績（日本海総合病院）

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
実習学生数	3 名	3 名	5 名	1 名

- ② 救急救命士の技能向上等が図られるよう、救急救命士養成課程の就業前研修、再教育実習、山形県消防学校救急科の病院実習を実施し、計 40 名の実習生の受入れを行った。

【実績】実習生受入人数（日本海総合病院）

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
就業前研修	2 名	1 名	2 名	4 名
再教育実習	30 名	31 名	31 名	31 名
病院実習	4 名	3 名	4 名	5 名
計	36 名	35 名	37 名	40 名

イ 住民意識の啓発活動（日本海総合病院）

- ① 臓器移植普及推進や受動喫煙防止のための各種ライトアップ運動に参加し、地域住民に向けた啓発活動を行った。

地域住民を対象に市民公開講座を開催し、がんに関する情報提供を行った。

【実績】がん診療連携拠点病院公開講座（開催場所：ホテルリッチ&ガーデン酒田）

開催日	内容等	参加人数
令和 7 年 8 月 24 日	「健康寿命を延伸する最高の腸活」 一般社団法人辨野腸内フローラ研究所 理事長 辨野 義己 氏	244 名

- ② それぞれの病院や診療所の役割等に関する情報を分かりやすく提供するため、ホームページでの病院情報の発信や病院広報誌「あきほ」の発行により、地域住民に分かりやすく、かつ幅広い情報発信を行った。

4 月に運用を開始した生殖医療センターについて、受診を希望する方が安心して受診出来るようホームページを開設した。

【実績】病院広報誌発行回数

令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
4 回	4 回	4 回	4 回

目標とする病院広報誌発行回数について、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和 7 年度実績
病院広報誌発行回数	4 回以上	4 回

3 患者・住民の満足度の向上

患者サービス向上に向け、患者アンケートを実施し患者の声を適切に把握するとともに、患者サービス向上の一助とするため、職員満足度調査を実施した。そのほかにも、外来待ち時間調査の実施や、医療接遇オンラインセミナーを実施し、接遇について知識を深めた。

【実績】患者満足度（日本海総合病院）

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
入院患者満足度	94.9%	89.6%	98.9%	98.5%
外来患者満足度	90.6%	91.7%	95.7%	95.4%

目標とする患者満足度について、入院患者満足度のみ目標値を上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
入院患者満足度	96%以上	98.5%
外来患者満足度	96%以上	95.4%

4 法令等の遵守と情報公開の推進

① 法令遵守、職務遂行を就業規則に規定し院内イントラネットで常時周知するなど、職員に対して周知徹底に取り組んだ。

② インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ等医療情報の情報開示にあたっては、山形県情報公開条例及び山形県個人情報の保護に関する法律施行条例に基づき、県の機関に準じて適切に行った。

文書管理については、山形県公文書等の管理に関する条例に基づき、保存・廃棄等適切に対応した。

【実績】診療情報提供申出件数（日本海総合病院）

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
43 件	57 件	77 件	89 件

5 医療安全対策の充実・強化

（１）医療事故等の防止

住民に信頼される安全で安心な医療を提供するため、診療報酬改定にあわせた研修や医療安全の更なる推進を目的とした研修会を行い、病院全体の医療安全の強化を図った。

開催方法については、開催当日の集合研修のほかに、未受講者に対してeラーニングによる動画配信を行った。未受講者に対しては、定期的に受講の呼びかけを行い、多くの職員が受講できるよう取り組んだ。

【実績】医療安全研修会（日本海総合病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和7年10月3日	第1回 医療安全・身体拘束最小化チーム全体研修会 『インシデント報告（転倒転落・チューブ類自己抜去）からの傾向と対策』 講師 医療安全管理者 富澤晴美 氏 『身体拘束最小化における多職種カンファレンスの必要性について』 講師 3階南病棟 看護師長 齋藤百合 氏	1,152名
令和7年12月18日	第2回 医療安全全体研修会 『当院のインシデント報告の内訳・内容と改善策』 講師 医療安全管理者 富澤晴美 氏 『診療情報管理士の視点からの医療安全対策』 講師 医事課 診療支援係 調整主任 佐藤悦子 氏	1,121名

【実績】院内感染対策研修会（日本海総合病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和7年8月25日	第1回院内感染対策研修会 『結核患者の感染対策について』	1,178名
令和7年11月17日	第2回院内感染対策研修会 『薬剤耐性菌の脅威－抗菌薬の適正使用について－』	1,161名

【実績】医療安全研修会（日本海酒田リハビリテーション病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和7年12月11日	第1回 医療安全研修会 『一次救命の重要性を理解し実践』	76名
令和8年3月18日	第2回 医療安全研修会 『医薬品副作用被害救済制度について』	121名

【実績】院内感染対策研修会（日本海酒田リハビリテーション病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和7年9月10日	第1回 院内感染対策研修会 『感染対策基本となるもの』 ～全スタッフが行うべき手指衛生のタイミング～	139名
令和8年1月14日	第2回 院内感染対策研修会 『院内感染を起こしやすいウイルスや細菌について』 ～薬剤耐性菌について知ろう～	137名

医療安全対策に関する他医療機関との相互評価について、下表のとおり実施し、医療機関間で意見を交わし、互いの医療機関での医療安全の更なる向上に繋がられた。

【実績】医療安全地域連携対策加算に伴う他医療機関との相互評価

開催日	評価対象病院	評価実施病院
令和7年10月30日	鶴岡市立荘内病院	日本海総合病院
令和7年11月27日	日本海総合病院	鶴岡市立荘内病院
令和8年3月11日	日本海酒田リハビリテーション病院	日本海総合病院
令和8年3月11日	順仁堂遊佐病院	日本海総合病院

目標とする医療安全対策に係る研修会については、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績	
医療安全対策に係る研修	2回以上	日本海総合病院	2回
		日本酒田リハビリ病院	2回

(2) 情報セキュリティ対策の強化

厚生労働省が定める医療情報システムの安全管理に関するガイドライン等を踏まえ、適切な情報管理やランサムウェア対策等、情報セキュリティの強化を図るため、全職員に向けたe-ラーニング研修を実施した。

地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」に新規参加する介護事業者及び新たに利用開始するユーザーに対して、対面でのセキュリティ研修会を実施した。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 組織マネジメントの強化、災害発生時の業務継続性の確保

① 運営委員会、診療部運営会議、業務改善委員会、経営戦略会議等を通して、内部統制の推進を図った。

自律性のある効率的な業務運営を行うため、内部統制規程のもと医療費未収金集金業務及び旅費の支給状況に係る業務監査を実施した。

目標とする内部監査の項目数について、目標値どおり実施することができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
内部監査	2項目	2項目

② 災害発生時における業務マネジメント体制を整備するとともに、BCP（業務継続計画）に基づき業務の継続性を確保できるよう、BCPマニュアルおよび災害対策マニュアル等の見直しを行った。

③ サイバーインシデント対応についてBCPに沿った机上訓練を実施し、課題が見つかった箇所についてBCPの改訂を行い、業務の継続性の確保に努めた。

オフラインバックアップシステムを更新し、仮想基盤サーバ上の全てのサーバについて7世代分のイメージバックアップを開始した。

2 診療体制の強化、人員配置の弾力的運用

医療需要の変化に迅速かつ的確に対応するため、定期的な人事異動により適材適所の配置に努めるとともに、診療体制の適正化を図った。

医師短時間正職員制度を利用することで、医師がキャリアを中断することなく安心して意欲的に勤務できるよう努めるとともに、時差出勤制度を導入し多様な勤務形態の活用を図った。

入退院支援センターでは多職種が協力し、効率的な業務運営を行った。

3 業務の効率化、職員の意欲向上

- ① 各種委員会等において、業務プロセスの見直しや課題等への対応を適切に行い、業務の効率化に努めた。

各業務においては、連携、機能分化の推進に努めるとともに、業務負担軽減に繋がるようタスクシフト・タスクシェアの推進等に努めた。

【実績】業務改善委員会（日本海総合病院）

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
新規提案	15 件	21 件	34 件	10 件
終了	19 件	18 件	20 件	7 件

- ② 職員の能力や経験を適切に評価し、昇任に反映させ意欲向上を図るとともに、将来の病院経営を担う人材を育成するため、リーダーシップを発揮できる人材の育成を行った。

4 経営基盤の安定化

（1）収入の確保

- ① 診療報酬改定等をはじめ各種制度の変化に迅速に対応するため、新たな施設基準の取得や見直しを行い、増収を図った。

【実績】令和7年4月～令和8年3月

区 分	金 額
新規施設基準取得による増収額	19,735,900 円

日本海総合病院ではDPC係数等に対する分析及び評価を適切に行い、令和7年度もDPC特定病院群が適用となった。また、収益の確保を図るため経営戦略会議にて要件の確認及び報告を行い、データ解析を進めた後、運用改善を院内の関係部署と連携しながら実施した。

目標とするDPC特定病院群の適用については、目標値どおり維持することができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
DPC特定病院群適用	期間中継続	継続

- ② 現金支払い・クレジットカード支払いに加え、後払いサービスを導入し、支払い方法を増やすことで患者の利便性を向上させ未収金の発生防止に努めた。

未収金回収業務においては、委託業者と連携し、支払いが困難と判断される案件については速やかに委託することで、早期回収に努めた。

（2）費用の抑制

- ① 医療を取り巻く環境の変化や患者動向に対応し、給与水準や職員配置の適正化、業務の委託等により人件費の適正化に努め、材料費についても、収益の状況を把握しながら費用削減に努めた。また、医薬品については、地域フォーミュラリの推進を図り、後発医薬品の使用促進に努めた。

【実績】後発医薬品数量シェア率

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
日本海総合病院	90%	92%	93%	92%
日本海酒田リハビリテーション病院	95%	95%	95%	96%

目標とする後発医薬品数量シェア率の目標値については、日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院ともに上回ることができた。

【目標】日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績	
後発医薬品数量シェア率	85%以上	日本海総合病院	92.4%
		日本海酒田リハビリテーション病院	96.0%

- ② バイオ医薬品については、後続品であるバイオシミラーへの切り替えを実施した。

【実績】バイオシミラーへの切替（日本海総合病院）

先発品	後続品
ヒュミラ皮下注	アダリムマブ BS 皮下注
ヒューマログ注	インスリンリスプロ BS
ネスブ	ダルベポエチン BS
ハーセプチン	トラスツズマブ BS
グラン	フィルグラスチム BS
アバスチン	ベバシズマブ BS
ルセンティス	ラニビズマブ BS
リツキサン	リツキシマブ BS

目標とする指標については、後続品への切替えを実施したことにより、目標値を上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
院内処方に係る BS に置き換わった品目の使用量が80%以上※1の品目割合	60%※2 以上	66.7%

（※1）数量ベース：（BS 品目の年間使用量/先行バイオ医薬品の年間使用量+BS 品目の年間使用量）×100

（※2）成分ベース：（80%以上 BS に置き換わった品目数/当院採用 BS 品目数）×100

第3 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画

効率的かつ効果的な経営を持続するため、運営委員会や経営戦略会議等において、各職員へ経営状況の情報共有等を図った。

適切な資金計画に基づき、法人全体の資金収支の均衡や短期借入金の抑制を図った。

目標である経常収支比率、修正営業収支比率及び純資産額について、目標値には届かなかった。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和7年度実績
経常収支比率	100%以上	97.5%
修正営業収支比率	95%以上	93.2%
純資産額（単位：百万円）	前年度の額以上	△ 727

別表 1 予算及び決算

(単位：百万円)

区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	29,341	28,881	△ 460
営業収益	26,168	25,395	△ 773
医業収益	24,691	23,896	△ 795
運営費負担金	1,477	1,499	22
営業外収益	198	530	332
運営費負担金等	34	35	1
その他	164	495	331
臨時利益	13	21	8
資本収入	2,961	2,934	△ 27
運営費負担金等	478	478	0
長期借入金	2,482	2,420	△ 62
その他	1	36	35

(単位：百万円)

区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支 出	28,924	28,849	△ 75
営業費用	24,778	25,010	232
医業費用	24,551	24,794	243
給与費	11,820	11,691	△ 129
材料費	8,367	8,989	622
経費	4,259	4,028	△ 231
研究研修費	105	85	△ 20
一般管理費	227	216	△ 11
営業外費用	101	92	△ 9
臨時損失	0	5	5
資本支出	4,044	3,743	△ 301
建設改良費	3,074	2,777	△ 297
長期借入金返還金	955	955	0
奨学金貸付	14	11	△ 3
その他	1	0	△ 1

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

別表 2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	26,921	26,405	△ 516
営業収益	26,697	25,857	△ 840
医業収益	24,646	23,851	△ 795
運営費負担金収益	1,477	1,499	22
資産見返運営費負担金等戻入	573	507	△ 66
営業外収益	211	527	316
運営費負担金収益	34	35	1
その他医業外収益	177	492	315
臨時利益	13	21	8
支 出	26,913	27,112	199
営業費用	25,388	25,579	191
医業費用	25,180	25,396	216
一般管理費	207	184	△ 23
営業外費用	1,492	1,479	△ 13
臨時損失	33	54	21
純 利 益 (△純損失)	8	△ 708	△ 716

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

別表 3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	42,347	41,912	△ 435
業務活動による収入	26,379	25,765	△ 614
診療業務による収入	24,691	23,758	△ 933
運営費負担金による収入	1,512	1,557	45
補助金等収入	62	277	215
その他の業務活動による収入	115	173	58
投資活動による収入	6,979	4,082	△ 2,897
有価証券の売却による収入	500	0	△ 500
定期預金の払出による収入	6,000	3,500	△ 2,500
運営費負担金による収入	478	478	0
奨学金の返還による収入	1	1	0
その他の投資活動による収入	1	103	102
財務活動による収入	2,482	2,420	△ 62
長期借入による収入	2,482	2,420	△ 62
前年度からの繰越金	6,506	9,645	3,139
資金支出	35,424	35,681	257
業務活動による支出	24,880	25,096	216
人件費支出	11,820	11,882	62
材料費支出	8,367	8,843	476
その他の業務活動による支出	4,693	4,371	△ 322
投資活動による支出	9,589	9,628	39
有形・無形固定資産の取得による支出	3,074	3,117	43
有価証券の取得による支出	500	3,500	3,000
定期預金の預入による支出	6,000	3,000	△ 3,000
奨学金の貸付による支出	14	11	△ 3
その他の投資活動による支出	1	0	△ 1
財務活動による支出	955	957	2
長期借入の返済による支出	951	951	0
移行前地方債償還債務等の 償還による支出	4	4	0
リース債務の返済による支出	0	2	2
翌年度への繰越金	6,923	6,231	△ 692

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

第4 短期借入金の限度額

短期借入金の実績なし

第5 剰余金の使途

決算剰余金については、建設改良積立金に充当し、将来の施設整備及び医療機器の整備に備えた。

第6 料金に関する事項

1 使用料及び手数料

(1) 法令等に基づき算定する使用料及び手数料

料金の額は、計画に記載の基準等の規定により算定した額を徴収した。

(2) その他の使用料及び手数料

計画に記載の契約等による額とした。

2 使用料及び手数料の減免

該当なし

第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 医療機器・施設整備に関する事項

① 医療機器については、費用対効果、地域の医療需要、他機関との機能分化、医療技術の進展等を総合的に判断し、総合医療情報システムや周産期管理システム、一包化錠剤監査装置の導入、パノラマCT装置の更新等を整備し、適切な医療の確保に努めた。

② 日本海総合病院は施設整備について、中長期計画等に従い、緊急度が高い設備の修繕工事を行った。

【実績】修繕工事（日本海総合病院）

工事名	契約額 (千円)	概 要
直流電源装置部品交換工事	7,700	南棟5階（副電気室）に設置の直流電源装置のメーカー部品交換推奨期間を迎える部品等を更新した。
空調機ユニット更新工事	88,000	耐用年数の超過と塩害により劣化している空調機（手術室系統）1基を更新した。
ファンコイルユニット交換工事	24,530	耐用年数の超過により劣化しているファンコイルユニット33台を更新した。（リハビリ系統2台・放射線診断系31台）
空冷式エアコン更新工事	27,940	耐用年数の超過により劣化している南棟のエアコン部品及び室外機を更新した。（1階救命救急エリア系統）
蒸気ボイラー更新工事	13,420	エネルギー棟に設置の貫流蒸気ボイラー1基を更新した。
エレベーター更新工事	23,980	メーカー部品対応期間が超過している部品等を更新した。（10号機）

日本海八幡クリニック等は、酒田市との協議に基づき地域医療ニーズに沿った医療機器等の更新を行った。

令和7年度 12件（八幡：心電図更新、ホルタ型心電・血圧・酸素飽和度記録器導入、訪問診療用車両更新ほか）

- ③ 地域の医療機関の機能分化を推進するため、日本海酒田リハビリテーション病院の療養病床35床について休床を検討した。

中山間地域において通院が困難な患者に対し、医療Ma a Sによるコミセンでの診療を開始する等、遠隔診療の拡充を図った。

- ④ 高額な医療機器・施設整備の更新及び整備については、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な投資計画（整備計画）のもとに行った。

【医療機器・施設整備の計画】（単位：百万円）

区 分	実 績	財 源
資本支出		
建設改良費	2,525	設立団体からの 長期借入金等
施設整備	442	
医療機器等	2,083	

2 積立金の使途

前中期目標期間の繰越積立金については、施設の整備・修繕、医療機器の購入等に充てた。

3 その他法人の業務運営に関する事項

- ① 酒田市・公益財団法人やまがた健康推進機構および診療所等との連携、機能分担のもと、地域の検診実施体制の充実を図った。

酒田市が実施している「内視鏡ドック」のうち、胸部CT、上部内視鏡検査、下部内視鏡検査を受託し実施した。酒田市の内視鏡ドックと併せ、PET/CT検査の受診促進のため、市民に周知した。

【実績】内視鏡ドック、PET/CT検診

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
内視鏡ドック	93件	84件	89件	87件
PET/CT検診（一般）	46件	29件	32件	38件
PET/CT検診（酒田市）	13件	20件	34件	21件
PET/CT検診（山形県市町村共済互助会）	24件	30件	40件	25件
PET/CT検診（ふるさと納税）	2件	0件	4件	1件

- ② 病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「庄内北部定住自立圏形成協定」により三川町、庄内町及び遊佐町に在住の乳幼児等も受け入れる体制を整え、日曜日、祝日、年末年始休業（12/29～1/3）を除き、通年で事業を継続して実施した。また、定員9名とし当日予約の受入れや事前に医療機関の診察を受けていない利用者の受診付添いサービス及び保育園等からの病児送迎サービスを実施した。

【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
利用者数	396 名	616 名	511 名	497 名
うち職員利用者数	167 名	228 名	153 名	149 名

【実績】受診付添サービス等利用者

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
受診付添サービス	0 名	5 名	1 名	7 名
病児送迎サービス	1 名	0 名	3 名	2 名